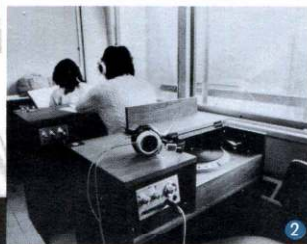


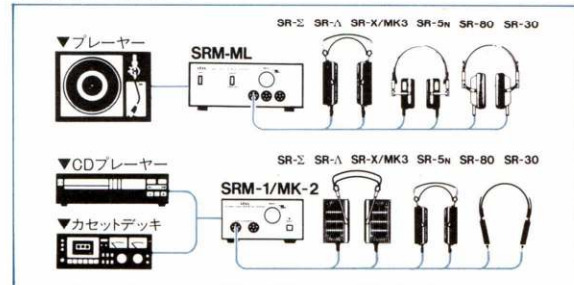
高音質で使いやすい、シンプル構成。音楽の独習など、パーソナルユースに最適。

CDプレーヤーやレコードプレーヤー、カセットデッキなどと組み合わせれば、高音質・低歪みの優れた聴取システムができます。



写真①: 東京・上野文化会館 / 音楽の専門家に使われる機会の多い文化会館は、CDプレーヤーとSR-A及びSRM-1/MK-2の組合わせてCDの音質をフルに引き出している。
写真②: 東京・桐朋音楽大学 / レコードプレーヤーとイヤースピーカー専用プリメインアンプ+イヤースピーカーのシンプルな構成。プレーヤーのフタを開けると楽譜やノートが置け、大変便利。

特におすすめしたいのが、CDプレーヤーとの組合せです。取扱いが簡単で、ノイズが少なく高音質。そして曲の頭出しや部分リピートがすばやくできるというCDならではのメリットが、名演奏家の演奏を繰り返し聴く事の多い音楽大学生などに、とても適しています。コンデンサー型のイヤースピーカーは特に微細な音の再現に優れ、低歪みですから、CDのクオリティを十分に引き出すだけでなく、長時間のヒアリングにも疲れず、音楽の独習に最適です。



センターコントロール・システム

集中管理方式なら、多数の人が同時に希望のプログラムを楽しむことができます。

送り出しセンターから送られてくるソースの中から、聴取者が希望のプログラムを選択するシステム。

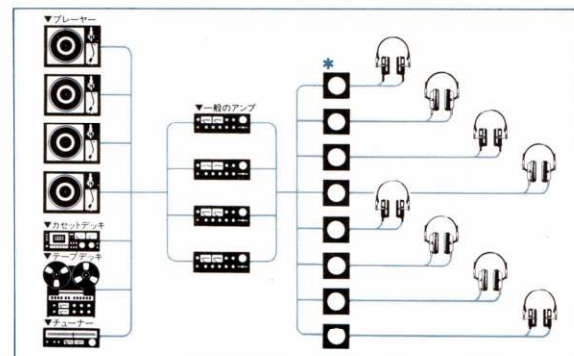


写真③: 東京・水道端図書館 / 椅子の間に設置されたスイッチボックス・アダプターのスイッチを聴取者が切り換え、好みのプログラムを選択して楽しんでいる。
写真④: 早稲田大学・図書館 / コントロール・ルームの送り出しシステム。多数のプレーヤー、テープデッキ、チューナなどの送り出し機器をコントロールし、聴取者へ複数のソースを送り出す。写真はイヤースピーカーでモニターしながらレコードをソースとして送り出しているところ。



ミュージック・ライブラリーとして貴重なレコードやテープを多数保存していたり、特に子供の利用者が多い図書館では、専門のオペレーターによりソースを傷めずに送り出せる、集中管理方式が適しています。聴取者は手元のセレクトアススイッチにより、送られてくるソースの中から聴きたいものを選ぶことができます。ナチュラルで高品位な音質を誇るスタックスイヤースピーカーの使用により、公共の施設にふさわしく、家庭ではなかなか聴くことのできない、ハイクオリティな音楽を提供することができます。

* セレクトアススイッチボックスは、送り出しアンプの数に応じて特注となります。



現用のヘッドホンコンデンサー型に換えるだけでも、グレードアップがはかれます。

ご使用中のダイナミック型ヘッドホンを、コンデンサー型イヤースピーカーシステムに交換する方法。



写真⑤: 明治大学・図書館 / レコードプレーヤーとプリメインアンプの組合せにアダプターとイヤースピーカーを加えたシステム。
写真⑥: ニューヨーク・Hunter College / グレードアップのために、従来のダイナミック型ヘッドホンをコンデンサー型のイヤースピーカーに換えて使用している。

すでに機能的に充実したシステムをご使用になっており、現用装置を大幅に変更することなく音質的なグレードアップをお考えでしたら、コンデンサー型のイヤースピーカーをお勧めします。コンデンサー型といっても決して特殊な装置が必要ではありませんし、特に高価なわけでもありません。CDプレーヤーやプリメインアンプ、カセットデッキ等のヘッドホンジャックに直接接続できるタイプもあります。(SRD-X) このアダプターは手元でボリューム調整ができるので、大変便利です。もちろんAVシステムへの適応性にも優れています。

